



人工魚礁豆知識



Q1. 人工魚礁って何？

A. 人工魚礁は海底の岩や沈んだ船に魚が集まる習性を利用して、コンクリートや鉄などで人工的に造られた「魚のマンション」です。古くは江戸時代に石をたくさん沈めて、魚礁にした記録があり、昭和50年ごろから本格的に国や県・市町村の事業として、全国の海に設置されるようになりました。

また、「藻場」という海藻が茂る場所を造るための増殖礁もあります。「藻場」は、魚の産卵場所や稚魚の隠れ場となり、魚にとって重要な役割を果たしています。



魚礁に集まるクエ



海藻の生えた魚礁

Q2. 海に沈めるとどうなるの？

A. なにもない砂や泥の海底に、人工魚礁を沈めると、数ヶ月後にはいろいろな魚が集まってきます。

集まった魚は、漁師さんたちが釣りやはえ縄、刺し網などで漁獲して、みんなの食卓にのぼります。また、捕まえられずに残った魚は、産卵をして多くの子孫を残し魚の資源が増えるための役に立つのです。

Q3. どんな魚が集まるの？

A. 人工魚礁に集まる魚は、120種類以上いるといわれています。集まり方も、魚礁に体をくっつけるカサゴやアイナメ、魚礁の近くを泳ぎまわるマダイやイシダイ、魚礁から離れた中層を群れて泳ぐブリやアジ・サバ、魚礁周辺の海底に集まるヒラメやカレイなど様々な魚がいろいろな場所に集まります。

また、魚以外にもカニ・エビやイカ・タコなどを対象としたものもあります。



ブリ



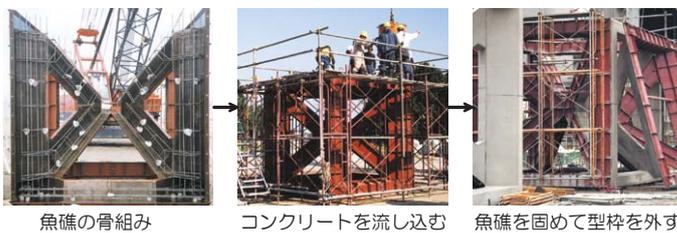
マダイ



ヒラメ



スワイガニ



Q4. 人工魚礁はどのように作られるの？

A. 人工魚礁の材質はコンクリート・鉄など様々なものが使われますが、コンクリートの場合、まず、鉄筋で骨組みをして、型枠を組立てます。次に、型枠にコンクリートを流し込み、固めたら型枠を外して完成です。

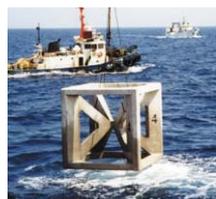
海底に設置すると「魚のマンション」として利用されます。

大きさは様々で、高さ1mほどから10mを超えるものまであります。また、魚礁を積み重ねて大きな1つの山状の魚礁群を造ることもあります。

これらの魚礁は、地域や目的、集めたい魚の種類や設置する水深など用途にあわせて使い分けられています。



「魚のマンション」完成！（魚礁に集まるマアジ）



魚礁を海に沈める

日本の海域のほぼ全域に、当社の魚礁が沈められています。